

第 22 回選定委員会議事概要

(第 33 回物質・生命科学施設利用委員会との合同開催)

1. 日 時:2020 年 10 月 20 日(火) 14:00~16:30
2. 開催形式:オンライン会議(ZOOM)
3. 出席者:[委員]家泰弘(委員長)、高妻孝光、有馬孝尚、佐藤卓、山室修、小池洋二、杉山正明、櫻井吉晴、高原淳、加美山隆、山口敏男、北澤英明、岸本浩通、常行真司
(出席者 14 名(定足数 7 名)のため委員会は成立)
[オブザーバー]:萩谷遥平、高田慎一(文部科学省)、
柴山充弘、加倉井和久(総合科学研究機構)、大友季哉、瀬戸秀紀(J-PARC センター)
[事務局]:野間敬、浅井利紀、後藤笑美

(以上、敬称略、順不同)

4. 議事次第:

1. 開 会(14:00~14:20)

- (1) 開会の挨拶(J&C) J-PARC センター センター長 齊藤直人
文部科学省量子研究推進室 室長 河原 卓氏 (代理 萩谷遥平氏)
- (2) 施設利用委員会/選定委員会 新規委員の紹介(J, C) 鈴木
資料 1-1:施設利用委員会/選定委員会 委員名簿
- (3) 前回議事録の確認と MLF での検討結果の報告(J, C) 鈴木
資料 1-2:第 32 回物質・生命科学実験施設利用委員会議事録
資料 1-3:第 21 回選定委員会議事概要
資料 1-4:前回合同会議の意見・要望と MLF の対応

2. 審議事項(14:20~15:20)

- (1) 2020B+2021A 期一般利用課題(短期)、一般利用課題(長期)の審査結果(中性子, ミュオン)(J, C)
有馬(中性子), 久保(ミュオン)課題審査部会長
資料 2-1:2020B+2021A 期短期課題及び長期課題の審査結果(中性子, ミュオン)
- (2) 中性子課題審査部会(NSPRC)/利用研究課題審査委員会(PEC)開催報告
有馬中性子課題審査部会長/利用研究課題審査委員会会長
資料 2-2:2020B+2021A 期中性子課題審査部会(NSPRC)/利用研究課題審査委員会(PEC)及び
分科会開催報告
資料 2-2-1:一般利用課題(短期)P1~P9 分科会 Minutes
資料 2-2-2:長期課題分科会 Minutes
回収資料 1:2020B+2021A 期一般利用課題(短期)審査結果一覧(中性子)(※)
回収資料 2:2020B+2021A 期一般利用課題(短期)(新利用者支援課題)審査結果一覧(中性子)(※)
回収資料 3:一般利用課題(長期)審査結果一覧(※)
- (3) ミュオン課題審査部会(MSPRC)開催報告 久保ミュオン課題審査部会長
資料 2-3:2020B+2021A 期ミュオン課題審査部会(MSPRC)開催報告
回収資料 4:2020B+2021A 期一般利用課題(短期)審査結果一覧(ミュオン)(※)
- (4) 次回一般利用課題の公募(J&C) 鈴木

資料 2-4: 次回一般利用課題の公募

- (5) 中性子実験装置部会報告(J) 中島
資料 2-5-1: 中性子実験装置部会報告及び添付資料
資料 2-5-2: 10年目評価と全体評価について

3. 報告事項(15:20～16:00)

- (1) KEK 共同利用実験審査委員会 課題審査報告(中性子, ミュオン)(J) 伊藤, 下村
資料 3-1: KEK 物構研中性子共同利用実験審査委員会 S1 課題審査報告
資料 3-2: KEK 物構研ミュオン共同利用実験審査委員会報告
- (2) ミュオン実験装置部会報告(J) 久保ミュオン実験装置部会長
資料 3-3: ミュオン実験装置部会報告
- (3) Fast Track Proposal の拡大(J&C) 鈴木
資料 3-4: Fast Track Proposal の拡大
回収資料 5: 2020 年度 FTP 実施状況(※)
- (4) MLF 報告(J&C) 大友ディビジョン長
資料 3-5: MLF 報告

4. その他(16:00～16:20)(J&C)

5. 閉 会(16:20～16:30)(J&C)

- (1) 次回の開催 鈴木
(2) 閉会の挨拶 CROSS 中性子科学センター センター長 柴山充弘

5. 議事概要

5.1 開会

(1) 開会の挨拶

齊藤 J-PARC センター長の挨拶に続き、文部科学省量子研究推進室長 河原卓氏の代理として、萩谷遥平氏より挨拶があり、その中で「今年度は新型コロナウイルスの感染対策、リモート環境整備等、ユーザー対応に苦慮されたと思われま。今後もコロナ禍の対応が求められると予想されるため、引き続きユーザー支援のスマート化を進めて頂きたい。今回、課題の申請数が過去最大となったことについてはこれまでの皆様のご尽力の賜物で、J-PARC MLF に寄せられる期待の大きさと思われま。文部科学省としても施設からのシーズ、ユーザーからのニーズに則し、施設を最大限に活用できるよう経費の確保に務めていきたい。また、今後 JRR-3 と J-PARC MLF の連携を深め、学術利用、産業利用を促進し、科学技術の発展に貢献されることを期待したい。」とコメントを頂いた。

(2) 施設利用委員会/選定委員会 新規委員の紹介

鈴木委員(施設利用委員会委員、以降省略)より、資料 1-1 施設利用委員会/選定委員会 委員名簿に基づき、今回から新たに本委員会に参加される委員が紹介された。

(3) 前回議事録の確認と MLF での検討結果の報告

1) 前回の選定委員会議事概要の確認

鈴木委員より、資料 1-3 前回の議事概要について、既に内容はメールで回覧され承認されているが、意見等があれば会議終了までに申し出るよう説明があった。

2) 前回の合同会議の意見・要望と MLF の対応の報告

鈴木委員より、資料 1-4 に基づき、前回の合同会議の意見・要望と MLF の対応について報告が行われた。

5.2 審議事項

(1) 一般利用課題(短期)、一般利用課題(長期)の審査結果

中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会の有馬部会長/委員長より、資料 2-1 及び添付資料に基づき、2020B+2021A 期一般利用課題(短期)、及び一般利用課題(長期)の新規課題、継続課題の審査結果の全体概要について報告が行われた。

(2) 中性子課題審査部会(NSPRC)/利用研究課題審査委員会(PEC)開催報告

中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会の有馬部会長/委員長より、資料 2-2 及び回収資料 1、2、3 に基づき、部会/委員会における長期課題(新規(2020L)、継続(2018L、2019L)及び、2020B+2021A 期短期課題審査状況に関して報告が行われ、採否については利用研究課題審査委員会の提案の通り承認された。なお、共用 BL の一般利用課題(短期)(新利用者支援課題を含む)については、申請数 198 件、採択数 93 件(採択率 47%)であった。MLF 全体については、申請数 457 件、採択数 239 件(採択率 52%)であった。

また、以下の議論が行われた。

- ・レフェリー審査の評価基準で評点と内容にズレがあるとの指摘に対し、MLF で評価基準の見直しを行うこととなった。

- ・一般財団法人から産業利用課題(P7 分科会)への申請を認めるかについて、J-PARC MLF の産業利用を広げることを考えると共同実験者に企業の方が入っていれば申請内容を確認したうえで産業利用課題として認めても良いのではないかと意見が委員よりあった。

- ・茨城県では一般財団法人からの申請も産業利用課題として受け付けている。また、学术界からの申請についても企業と共同研究をしている場合等は産業利用課題として認めている。

- ・産業利用課題の審査基準には産業利用価値の評価が含まれている。この審査基準が満たされているのであれば申請者の所属先は問わなくても良いのではないかと意見があった。ただし、産業利用課題の門戸を広げることで、日本語申請できる産業利用課題の申請が極端に増えることもあり得るため MLF で検討する必要がある。

- ・これらの意見を踏まえ、産業利用課題に申請できる機関・条件について、MLF 及び NSPRC/PEC で検討を進めることとなった。

(3) 次回の一般利用課題の公募について

鈴木委員より、資料 2-4 次回一般利用課題の公募について報告が行われ、2021A 期一般利用課題(短期、1 年)の追加公募は実施しないことが承認された。また、2021L 一般利用課題(長期)についても公募を中止することが承認された。

5.3 報告事項

(1) Fast Track Proposal の拡大

鈴木委員より、資料 3-4 Fast Track Proposal の拡大に基づき、2020B 期から BL17、BL18、BL22 でも Fast Track Proposal を導入する予定との報告が行われた。また、以下の議論が行われた。

- ・回収資料 5 で測定終了日が記載されていない課題があるが、これらの課題は 2020A 期内に実施される予定か？

→2020A 期の利用期間は 2020 年 12 月中旬頃まで予定されているため、それまでに実施する予定である。

- ・2020A の利用期間が伸びたので 10% 枠(一般課題調整枠)も広がっていると考えてよいか？

→10%枠のビームタイムに変更はない。

・Fast Track Proposal の審査及び採否の決定はどのように実施されているのか？

→Fast Track Proposal の審査は技術審査、安全審査を実施し、安全上問題が無く、また、申請された装置の実施条件に合っていれば採択となる。

・コロナ禍であるため、Fast Track Proposal のような制度も重要となるとのコメントが委員長よりあった。

→Fast Track Proposal は随時受け付けているため、今回のコロナ禍で有効に活用されている。

(2) MLF 報告

大友 MLF ディビジョン長より、資料 3-5 MLF 報告に基づき、MLF の現状について報告が行われ、以下の議論が行われた。

・スライド 8 の 2018 年度以降の 1MW 運転のグラフが 1MW より低く見えている。

→実際は 900kW 程度の運転となっている。

(3) その他の議論

・コロナ禍においてリモート対応をするための特別な予算措置などはあるのか？

→内閣府の官民研究開発投資拡大プログラム (PRISM) の予算を用いて装置の自動化等の対応に取り組んでいる。また、それ以外にも予算要求を行っている。

・2020A 期に一般利用課題が実施できずに空いたビームタイムはどのように活用されたか？

→基本的には装置開発や装置グループの課題を実施したが、代行実験に力を入れた装置もある。

5.4 閉会

(1) 次回の開催

鈴木委員より、次回の MLF 施設利用委員会/選定委員会の合同委員会を 2021 年 2 月頃に ZOOM で開催し、2021B の公募要領、審査基準、中性子実験装置部会の結果の審議等を予定するとの報告が行われた。

(2) 閉会の挨拶

柴山 CROSS 中性子科学センター長より、「ご出席頂いた関係者各位には、MLF の課題審査へのご協力、施設利用へのご意見等を頂き改めてお礼を申し上げます。MLF 中性子実験装置の全体評価は MLF にとって重要課題で、この機会に装置だけでなく線源等についても見直しが必要と考えており、MLF と一緒に検討を進めていきたいと考えています。また、本日の委員会内で議論頂いた意見を踏まえ、MLF の更なる発展につなげ、申請数増大下の採択率の改善、JRR-3 との関係等についても今後検討を進めていきたいと考えています。」との挨拶があった。

以上